

Susumu Yabuki,
*China's New Political Economy :
the Giant Awakes.*

Translated by Stephen M. Harner, Boulder,
WestView Press, 1995, xxxii + 320 pp.

いしかはらもり き
大原盛樹

本書は『[図説] 中国の経済』増補改訂版(蒼蒼社 1994年)の英訳版である。原書は、中国経済の概要と1978年から始まった改革・開放期の成果および直面する重要な諸問題を、整理された統計データと図表を駆使して専門家以外の読者にも分かりやすく紹介しており、読者にとって最も取り組みやすい情報分析書としてすでに広く受け入れられている。無論、対中ビジネス関係者や研究者など中国経済に専門的に関わる読者にとっても、コンパクトなレファレンスとしての便を、原書はすでに供してくれている。今回の翻訳版は英語圏の読者にも同様の便宜を与えてくれるはずである。

本書は中国経済を見る際に最も注意すべきポイントをほぼ網羅しているといつてよい。全22章で取り扱うのは、人口問題、計画経済メカニズムの桎梏、市場経済化の戦略、国営企業の不振、郷鎮企業や外資の急成長、労働市場と賃金改革、農業・食糧問題、産業構造の転換、財政赤字と中央・地方間関係、インフレ、資源・エネルギー問題、環境問題、対外貿易と直接投資・援助、日中経済関係、地域間格差、対外開放と地域開発戦略、中国経済の将来予測等の諸テーマである。マクロ経済管理体制の模索と米中関係を分析した第19章と20章は日本語版にはなく、新たに加えられたものである。最終章では中国の1978年から93年までの改革・開放政策の揺れ動きと進展を、詳しい年表とともに簡潔にまとめている。巻末には1990年代の政策決定に際して大きく影響した「鄧小平の重要談話」など3つの共産党重要文件も掲載されている。英語圏の専門家に「散弾銃アプローチ」と半ば驚嘆をこめて評された^(注1)ほど多岐

にわたるテーマを分析している本書は、その紙数に比してかなり豊富な内容を備えているといえる。

本書の最大の特徴と魅力は、要領よくまとめられた豊富な図表である。図表数は81にも上り、グラフやモノグラフはポイントを視覚的に直感できるようにうまく工夫されている。特に地域的な相違や特徴を示す諸表は格差の実態を鮮明に印象づけてくれる。本書は数字により現実を語らせる方式でこれまで発表してきた著者の一連の著作をアップデートし改良してきた成果であり、統計数字と図表を最大限活用した専門書というユニークな試みである。無論その試みは、読みやすさと理解しやすさ、扱う範囲の広さ、情報量の多さとまとまりのよさ等の点で十分に成功している。

情報源としての評価も高い本書に若干の弱みがあるとするれば、止まることのない中国経済の急変貌と出版時期との間に必然的に生じるタイム・ラグであろう。1993年までの統計数字を基に描き出されている本書の中国経済像は、94年からの経済的・政策的諸変化の後、変更する余地が若干出てきているのではないかと紹介者は考える。例えば、本書では中央政府の将来的な役割がどちらかというと悲観的に述べられているが、1990年代半ばに至り、経済全体の調和のとれた発展に向けて中央政府の立場が若干強化されているように思われる。1994年から本格化した分税制の実施による地方に対する中央財政の好転や、「産業政策綱要」に代表される市場への積極的介入等がその兆しとして挙げられる。いずれにしても、1990年代も半ばを過ぎ、最新の統計資料に基づいた中国経済の新しい全体像を、版を改めて再提示されることが待ち望まれる。

もっとも、本書は、中国経済が本質的に抱える困難や計画経済時代から引きずる残滓、市場経済化への困難や負の帰結を政治的背景を含めて総合的に分析することを中心の一つにしており、ごく最新の情報にふれていないことのみが本書の価値を大きく減じさせるものではないことは付け加えねばならない。

(注1) Book Review by David S. G. Goodman,
The China Quarterly, No. 144, Dec. 1995, p. 1211.

(アジア経済研究所地域研究部)